

「愛用のズームカメラ」

(2010)

若い頃からカメラが好きで、今まで一体何台のカメラを手にした事だろう、フィルムカメラを使っていた最後の10年間はキャノン・EOSの一眼レフカメラにタムロンのズームレンズ(28〜200mm)を付けてっ放しで何処へ行くにも手放さなかった。これで殆んどのシーンに対応できた。写真のプロに言わせればズームレンズなる代物、解像度からいうと一段落ちる手段・・・と言うだろうが、僕の場合はそうじゃなかった、被写体毎にガチャガチャその度にレンズを交換するなんて、サラリーマンはそんなに暇じゃない。特別の撮影目的のある場合はもう一台のオリンパスOM-1のカメラに超望遠用にタムロン200〜500mmの望遠を付け、テレコンバーターを付ければ1000mm迄の望遠に対応出来た。そんなアナログカメラ生活を何十年も続けていて、溜まる一方のネガの束の整理に頭を悩ませていたところ、世に出たのがデジカメである。

新しいものにはすぐ飛びつく習性で、96年、所謂デジカメの先駆けCASIOの30万画素のデジカメを買った。画像的にはとても満足出来ず、何より電池の消耗の速さについてゆけず、愛用するまでの機械ではなかったが、何と言っても写真データがパソコン処理出来るというデジタルの世界に驚嘆した。その後は一挙にデジカメの性能の進歩・価格の低下たるや眼を見張るばかりであった。以後目的に応じて何台か買っ

たが、最後に落ち着いたのが、昔フィルムカメラで使い馴れていたズーム内臓のカメラである。24倍ズーム（26〜624mm相当）のペンタックス・X70 が僕の体の一部になりあらゆるシーンをこなしている。皆さん良く、最高の機種・・・即ちデジタル一眼レフカメラ・・・とおっしゃるが、余程専門的に使うのは別として、いちいち被写体に応じてカメラのレンズをガチャガチャ取り替えていては仕事にならないだろう・・・といらぬお節介を言いたくなる。もっとも写真好きの皆さんは、あの「ガチャガチャ」が何とも言えない快感なのだろう。

カメラもさる事ながら、今や携帯電話もカメラ付が普通となり、2006年から僕も2台目の携帯からカメラ付携帯を使用していた、ただ当時はまだ150万画素が精一杯で、シャッター動作も緩慢で使い辛かったが、2010年買い替えた今の3代目の携帯は1320万画素の高性能で、便利に使わせてもらっている。